

大学病院外来研修カリキュラム

全体目標:

患者の抱えるさまざまな健康問題について総合診療の視点から幅広くとらえ、解決をはかることができるようになるために、病歴聴取か治療方針の決定に至るまでの外来診療のプロセスについての体系的な研修を通して、その実践に必要な知識・技術・態度を修得する。

個別目標:

総合診療科の外来で研修を行う

	1 カ月	2 か月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	外来患者の診療における以下のプロセスについて体系的に実施できる。 医療面接、身体診察、鑑別診断、検査計画、臨床決断	患者との情報共有および治療方針の決定
2	臨床決断の基本的概念を理解し、外来診療で活用できる。	
3	EBM の各ステップを理解し、臨床上の疑問の解決に適用できる。	
4	頻度の高い主訴に対する鑑別診断ならびに初期対応ができる。	
5	プライマリ・ケアで遭遇する機会の多い精神疾患(うつ病、不安症、身体症状症など)の病態や症状を理解できる	プライマリ・ケアで遭遇する機会の多い精神疾患の初期対応ができる。
6	患者および家族の抱える健康問題について、心理社会的問題やヘルスプロモーションの側面も含めて幅広くとらえることができる。	心理社会問題やヘルスプロモーションの側面にアプローチできる。
7	教育技法の基本を身につけ、学生教育や患者教育に応用できる。	

方略:

- ・総合外来を受診する患者で、おもに新患者について、上級医・指導医の指導のもとで主体的に診療する。
- ・まず自分で病歴聴取および身体診察を行い、自分でアセスメント&プランを立ててから上級医にプレゼンテーションする。具体的な指示を受けた後に再度患者の診察を行い、必要に応じて検査及び治療を行う。
- ・担当症例については、指導医が毎日カンファレンスを行ってフィードバックを行う。
- ・抄読会、勉強会の担当を通して、EBM を実践するとともに、電子データベースの使い方に習熟し、英語論文を読む習慣づけを行う。
- ・ショートレクチャー:プライマリ・ケア医がよく経験する common problem を中心に毎日朝30分のレクチャーを受ける。これは、経験のバラツキを補い、プライマリ・ケアに必要な知識を幅広く身につけることを目的としており、原則として指導医が中心となって行っている。
- ・筑波メディカルセンター病院との合同カンファレンス:大学は特殊な症例が多いため、週1回筑波メディカルセンター病院の症例についてディスカッションする場を設け、経験症例の偏りを補うとともに、セッティングによる患者層の違いを実感する。
- ・その他、地方会や勉強会などに積極的に参加するようにする。

評価:

- PG-EPOCによる評価を行う
- 毎週金曜日に「振り返り」の時間を設けており、目標シート・振り返りシートを用いて研修医の「学び」に関して形成的評価を行う「振り返り」を実施する。
- ローテーション最終週に、総合診療科研修中最も印象に残ったケースや出来事について発表し、自分の感情やパフォーマンスにも目をむけたまとめを行う。研修で得られた「学び」を言語化することができ、同僚・指導医とも共有できる。
- 得られた研修医の評価は総合診療科のスタッフ・シニア以上のレジデント、全てが共有する。